

こちら危機管理課お天気相談所

～気象防災アドバイザーによるすぐに役立つ気象情報を月1で配信～

※気象防災アドバイザーとは「地元の気象に精通し、地方公共団体の防災対応を支援することができる人材」として国土交通大臣が委嘱した方です。

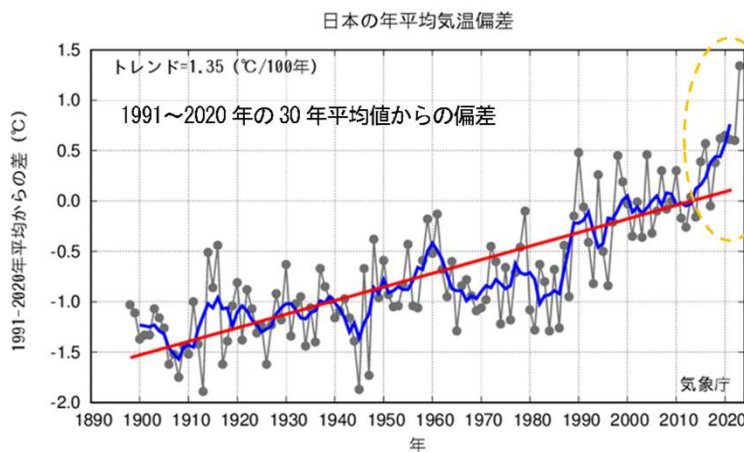


Yoshiaki Yano

地球温暖化の時代は終わり？！

“目を疑う”とは、このようなことを指すのでしょうか。昨年末、気象庁は「2023年の天候のとりまとめ(速報)」を発表しました。この中にある次のグラフ“日本の年平均気温偏差”を見て、驚きを覚えると共に、そう感じました。

ここ数年、日本の年平均気温は高止まりを示していましたので、少しでも低くなることを期待していま



した。しかし、この願いとは反対に、突出するほどの上昇を示しました。グラフの赤線が示されているように、長期変化傾向(1.35°C/100年)を理解することができますし、同時に2023年の気温はどれほど突出したかも分かります。速報には、他にも「日本近海の年平均水温偏差」や「世界の年平均気温偏差」もありますが、同様な昇温の突出が見られません。

昨年7月末、国連のグテーレス事務総長

は、7月の世界平均気温が過去最高を記録することがほぼ確実となったことから、記者会見で「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が到来した」と述べ、温暖化に伴う「気候変動は恐怖であり、そしてその始まりにしか過ぎない」と警告を発しました。皆さまの中には、これらのニュースや、「地球沸騰化」という言葉が2023年の新語・流行語大賞でトップ10に入ったことをご記憶の方も多いのではないのでしょうか。

温暖化が進むことで、気温の上昇だけでなく、次のような様々な問題が起こりやすくなります。

極端な気象現象：熱波・豪雨・強い台風・洪水・干ばつ・砂漠化など

海面上昇：氷河や氷床が融解し海面の上昇、沿岸低地での浸水や塩水の浸入

生態系の変化：陸地や海洋での生物の分布や生態系構造の変化

疾病の拡大：病気を媒介する“蚊”などの分布拡大、感染症の拡散

食糧安全保障の脅威：農業生産への影響により、食料供給の深刻化の可能性

これらの問題は頻発に発生し、2050年には気候変動によってこれまでのところでは生活できなくなる“気候難民”が2億人を越えると推定されています。しかし、これらの難民を受け入れる仕組みが整わず、国際社会が不安定化する可能性も報道されています。

事態は深刻化しています。温暖化防止への対策は、昨年12月にアラブ首長国連邦ドバイで開催された国連の気候変動枠組条約第28回締約国会議国(COP28)などで議論されていますが、地球温暖化防止策は各国レベルだけではなく、それぞれの国・都道府県・区市町村・企業・家庭などに影響してくるものです。それぞれのレベルにおいて温室効果ガスの排出削減など、温暖化防止対策を推し進めなくてはならないところであり、葛飾区においても2050年までに温室効果ガス排出量実質ゼロをめざし取り組んでいます。

温暖化に伴い極端な気象現象が増えることで、洪水などの深刻な災害リスクも高まっています。これまでハード・ソフトからの対策が講じられてはいますが、後手に回らないようにと、改めて感じています。グラフに示された2023年の年平均気温の昇温突出は、地球大気が発する悲鳴であり、私たち一人ひとりへの警告でもあると思っています。